校長室だより～燦燦～ №９３３

講評

2023.12.25

相変わらず、人前で話すことで悩んでいる。困っている。ノー原稿、原稿なしというのは定着してきた。そのために、毎回、変なプレッシャーに襲われている。自分で自分に重荷を課すかのごとくである。他の人からは、わからないことである。

話した後も、うまくいかなかったことを何度も振り返っている。ああ言えばよかった。これが抜けた。そんなことの繰り返しである。自分では、わかっている。その場で、何も考えずに話した方が、意外とうまくいくことを。だからと言って、前もって何の準備もしないで臨む勇気もない。そもそも、事前に話す内容を準備するから、抜けるということが起きるのである。聞いている方からしたら、抜けているかどうかなどわからない。

１０月２１日（土）に合唱コンクールがあった。外部からの審査員として、元同僚の先生に来ていただいた。審査に加えて、全校生の前での講評もお願いした。もちろん、ノー原稿である。それが、すばらしかった。これを聞いて、また落ち込んだ。自分は、ああいうふうには話せない。

すばらしい講評でも、月日が経つとともに、その中身のことは徐々に薄らいでいく。最後に残るのは、いい話だったということである。人によっては、心に残るキーフレーズ、キーワードがあるかもしれない。私は、いつもこのキーフレーズ、キーワードを意識して話している。

当日の講評の一部を紹介する。

こういう曲、１年生にも２年生にも当てはまることですが、合唱をつくっていくとき、例えば、こういうメロディだね、こういうハーモニー、こういうリズムだね、このくらいのテンポ、速さだね、いろんなことを考えて、いろんな要素をつくり上げていきます。そして、一つの合唱にしますが、その先にあるものは何なのかということが、一番の決め手です。その先にあるものは、この合唱はいったい何を伝えたいのか、 それには、歌詞の内容と、その曲がつくられた背景とか、それから今生きている自分の思いとか、様々なものが絡（から）み合って、そういったものが、人の心を揺さぶる合唱につながっていくのだと思います。

そういう意味で、３年生の歌詞の内容というのは、非常にどのクラスの内容も深いものがありますよね。そして、おそらく３年生のみなさん、様々な悩み、これから将来のこと、今生きていること、今学級のこと、友達のこと、たくさん悩みがあると思います。こういった悩みが、歌詞の中身とリンクしていく、それが人の心を打つんだと思います。

「その先にあるものは何なのか」「歌詞の中身とリンクしていく」が、私にとってのキーフレーズである。これからも話すことに対する精進を続けていきたい。